

日本のCOVID-19ワクチン接種の遅れを憂う

茨城県保険医協会副会長 高橋 秀夫

COVID-19 感染症は今も全世界で猛威をふるっており、日本での感染者 60 万人以上、死者数 1 万人以上。世界では感染者 1 億 5 千万人以上、死者数 320 万人以上に上っている。感染者数を減らすためにはマスクの着用、手洗いの励行、3 密回避だけでは不可能であり、抜本的解決策はワクチン接種の広がりや治療薬の開発であることは誰の目から見ても明らかである。

実際、ワクチン接種率が 60% を超えたイスラエルでは新規感染者数は激減してきており、外出時にはマスク着用が義務化されなくなってきており、日常生活を取り戻しつつある。2021 年 4 月 25 日現在、1 回でもワクチン接種を受けた人の

割合は英国 49.6%、米国 42.3%、お隣韓国で 4.4% であるのに対して日本は 1.5% にとどまっております。世界平均の 7.1% に遠く及ばず、経済協力開発機構（OECD）37 か国中最下位、世界 182 か国の中でも 131 位と極めて接種率が低くなっている。日本は 2 月 17 日に医療従事者向けの接種が開始されたが、日本より遅いニュージーランド、オーストラリア、韓国に接種率はすでに逆転されている。

この低迷する原因はどこにあるのかについては、国から国民には一切知らされていない。この状況下でも暴動が起きないのは、日本人がいかにも我慢強く従順な国民であるかを物語っていると

もいえよう。1 日の感染者数は英国で 6 万人以上、米国 30 万人以上と日本よりはるかに多くの感染者を抱えている国々ではワクチン接種を急ぐことは当然であろう。また、ワクチンが行き渡りにくい開発途上国にも分け隔てなく配分しなければならないことは言うまでもない。であれば政府はなぜ日本でワクチン接種が進まないのか、なぜ国別差異が生じるのかを国民が納得するよう説明すべきである。総理が渡米してファイザー CEO に日本向けワクチンの供給量を増やしていただくようお願いしてきたニュースなど誰も聞きたいとは思っていないのである。

また、諸外国に比べて日本ではワクチンの臨床試験手続きが煩雑であり、結果として治験が進みにくく、純国産のワクチンを接種できないことも接種率が上がらない要因の一つであろう。ワクチンによる集団免疫の獲得が遅れば、世界の中で日本の経済回復が遅れることになる。このような国がオリンピックなど開催してはならないのではないか。この新聞が発行される時点で少しでも状況が好転していることを祈るばかりである。